

OPEC プラスの決裂による原油価格の低下が米国天然ガス価格の上昇につながる？

世の中というものは、こちらを押したらあちらが飛び出す、というふうに、すべてがうまく行く方法を見出すことは難しい、3月6日の OPEC プラスで原油減産会議が決裂し、逆に原油増産となった結果、原油価格が半値近くの 30 ドル近くにまで急落した。

原油急落で高まる株価下落リスク、反転上昇「4つの条件」とは

3/12(木) 6:01 配信ダイヤモンド・オンライン

3月6日、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟国で作る「OPEC プラス」の協調減産を巡る会合で、OPEC の 150 万バレルの追加減産要求にロシアが反発、交渉が決裂して原油価格は急落した。

ロシアの予算レートが Brent 原油で 42 ドル程度であり、OPEC プラス開催前の価格水準でも問題なく、かつ、さらなる減産は収入減になるとロシア国内の原油生産者から強い反発があったためだ。

サウジアラビアは4月からの生産を日量 1230 万バレルに引き上げることを早々に決定している。その裏の意図として、財政状況の悪化には目をつぶり、他生産者をつぶしにかかっているともいえ、市場は大きく混乱することになるだろう。Brent で 20 ドル台まで下落することも想定しなければならない。

原油価格の急落は、原油の輸入大国である日本にとっては朗報である。一方、本日の日本経済新聞には右の記事が載った。

天然ガス（LNG）の急伸（価格上昇）が日本にどの程度の影響を及ぼすものであるかを見ておく必要がある。

Wikipedia によると、

シェールガス（英語: shale gas）は、頁岩（シェール）層から採取される天然ガス（天然気）。従来のガス田ではない場所から生産されることから、非在

日本経済新聞 2020.3.12

米天然ガス先物、急伸

シェール減産の観測

米国の天然ガスの先物価格が急伸した。指標となるニューヨーク市場のヘンリーハブ価格は日本時間11日午後の時間外取引で、100万BTU（英熱量単位）あたり1.9ドル台と前日比8%ほど上昇。約3週ぶりの高値を付けた。原油価格の急落で米国のエネルギー企業がシェールガスの減産に動くとの見方が広がっており、需給の引き締めが意識された。

ロシアとの原油減産協定が決裂したサウジアラビアが大幅増産と値下げを表明し、原油価格は前週末から2割以上急落。これを受けて米シェプロンやオキシデンタル・ペトロリアムなどの石油メジャーが相次ぎ支出削減を検討していると伝わり、シェールオイルとともにもガスの生産が鈍るとの観測が強まった。

米天然ガス先物は原油安や気温上昇による需要減が影響し、週初には一時4年ぶりの安値となる1.6ドル台に落ち込んでいた。足元のニューヨーク原油先物は米国の経済対策への期待などもあり、1.433ドル前後と9日の終値より6%ほど高い。

市場では「ガスも原油も需給緩和への懸念が強く、売り方の買い戻しが一巡すれば再び上値が重くなりそう」（石油アナリスト）との声が多い。

来型天然ガス資源と呼ばれる。

天然ガスとは、天然に産する化石燃料としての炭化水素ガスのことである。メタン、続いてエタンといった軽い炭素化合物を多く含み、その他の炭素化合物も含む。現代では、エネルギー源や化学品原料として広く使われる。(※主成分はメタンであり体積では95%以上を占める)

まず、原油価格が30ドル近くになったときに、各国の原油生産の採算がどうなるのかを見る。次の資料である。これによると、各国ともまだ頑張れる範囲にはありそうである。上の記事でロシアの予算レートは42ドルとあったが、下の図より原油生産コストは19.2ドルである。CAPEX (Capital Expenditure: 資本支出)、OPEX (Operating Expense: 操業費)

国際原油市場を取り巻く環境と価格形成に影響を与える諸要因に関する調査報告書

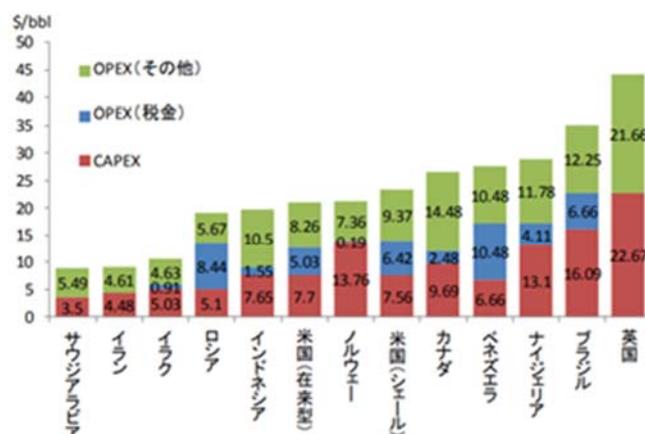
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 平成29年2月

https://www.meti.go.jp/medi_lib/report/H28FY/000619.pdf

目次

第1章 原油の生産コストについて.....1	第4章 原油価格と日本経済について.....49
1-1 在来型油田とシェールオイルの生産コスト.....1	4-1 原油価格の下落が日本経済に与えるポジティブ/ネガティブな影響.....49
1-2 生産コスト別の原油の予測生産量・埋蔵量.....7	4-2 2014年後半以降の原油価格下落による日本経済、企業業績への影響.....50
1-3 生産中の既存油田の減退傾向・見通し.....11	4-3 日本経済にとって、原油価格の下落はプラスかマイナスか.....63
1-4 CAPEX (資本的支出・コスト) と OPEX (運用支出・コスト) の関係.....15	第5章 主要産油国動向について.....66
第2章 原油価格と石油開発について.....18	5-1 石油輸出機構 (OPEC)、非 OPEC の原油生産調整に関するこれまでの動き・見通し...66
2-1 低油価と石油開発投資の関係、低油価環境下における検討プロセスと投資判断.....18	5-2 生産調整機能の担い手(サウジアラビアのスタンス変化、シェールオイルの価格弾力性).....72
2-2 投資決定から開発、生産までのプロセス及び期間.....22	5-3 原油価格下落が産油国 (経済面、政治面、原油生産等) に与える影響.....78
2-3 低油価環境下における米国シェール開発企業の動向・財務リスク.....27	5-4 産油国がデフォルトに陥った場合の原油市場や日本の原油調達への影響.....84
第3章 原油価格と石油需要について.....32	5-5 主要産油国におけるリスク動向.....88
3-1 原油価格の変動が石油需要に与える影響.....32	5-6 米国新大統領就任に伴う米国石油政策への影響.....94
3-2 原油価格の変動が石油関連企業や経済に与える影響.....38	第6章 原油価格と金融要因について.....104
3-3 原油価格の急変動が石油需要や石油関連企業、経済に与える影響.....43	6-1 金融緩和/金融収縮と原油価格の関係.....104
	6-2 株式市場・為替市場と原油価格の関係.....108
	6-3 原油市場への投資マネーの流入の影響.....112
	第7章 インブリークेशन.....120

図表 1-15 主要産油国での原油生産コスト



(注) 上記コスト推計では、生産者の利益、法人税等の石油探鉱開発事業に直接かわからない税金は除外されているものと推測される。
 (出所) Rystad Energy (2016年4月時点、Wall Street Journal 2016年4月15日より作成。)

ついで、資源エネルギー庁のホームページを確認した。

原油の輸入額（概算） 300万バレル／日×365日／年×60ドル／バレル＝6.6兆円／年
 天然ガス輸入額（概算）80万トン／年×5万円／トン＝4.0兆円／年

原油価格が60ドルから30ドルに半減すると、日本には3兆円強のメリットがもたらされる（皮算用）。一方、上の新聞記事にある米国の天然ガスであるが、「2018年5月、「シェール革命」が産んだ天然ガスが日本にも到来（資源エネルギー庁）」とあり、まだ輸入が開始されたところである。米国以外の他の国の生産が安定していればその影響は小さいものと考えられる。参考までに右のようなニュースもある。エネルギーの大輸入国であった中国の動向（不振）が原因である可能性が強い。

Wedge REPORT 2020年1月8日

暴落する「ガス（LNG）」価格、日本に好機到来か？

中西 享（経済ジャーナリスト）

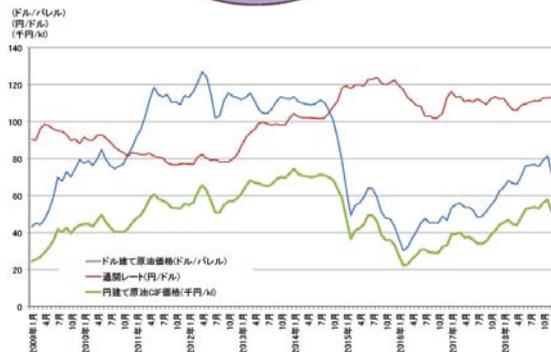
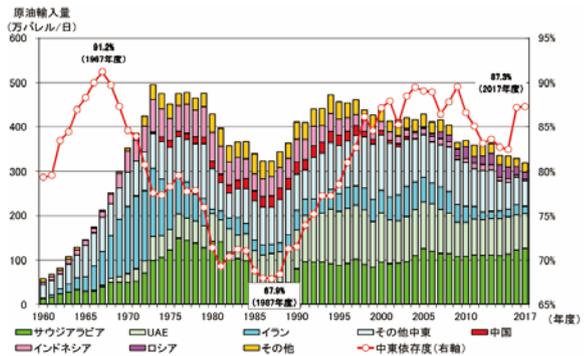
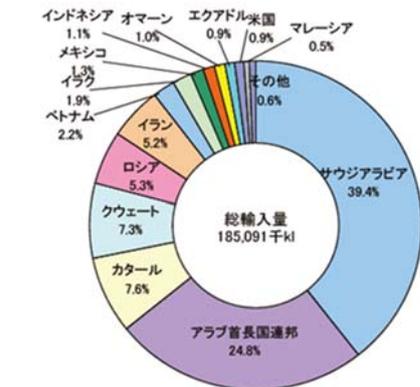
著者プロフィール ツイート シェア 243 印刷画面

世界的な供給過剰と需要の落ち込みにより、LNG（液化天然ガス）スポット価格が急落している。エネルギーの約25%をLNGに依存している消費国の日本にとってはLNGスポット価格の下落は好都合だが、困っているのが原油リンク価格で割高な長期契約を締結している日本の電力・ガス会社だ。供給過剰時代を迎えて、日本経済にとってなくてはならないエネルギー源となったLNGの調達方法が問われている。

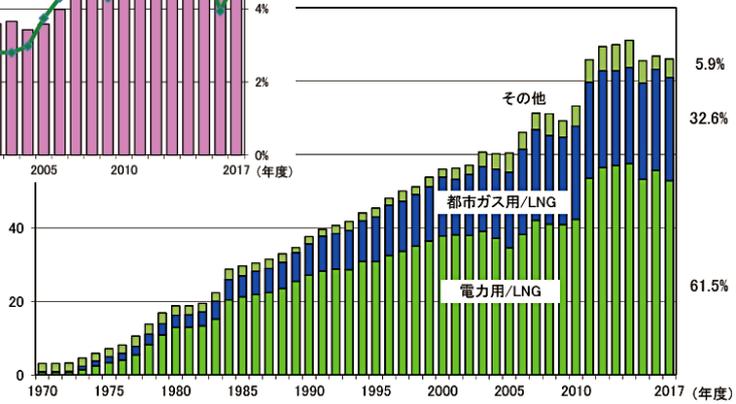
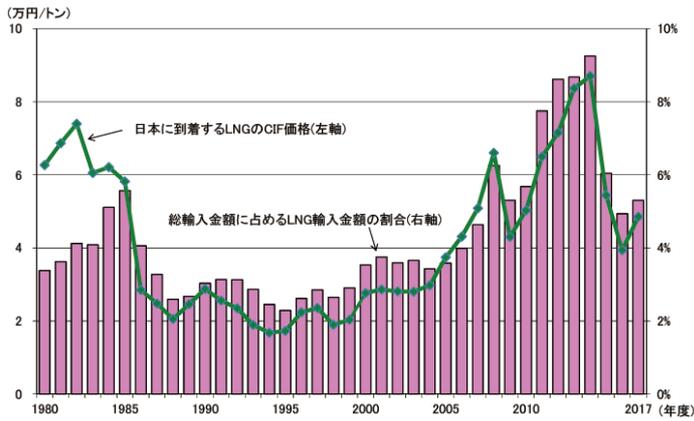
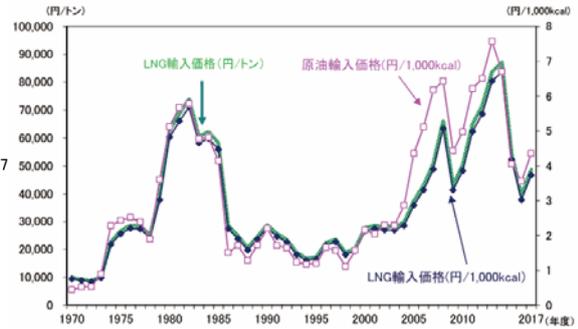
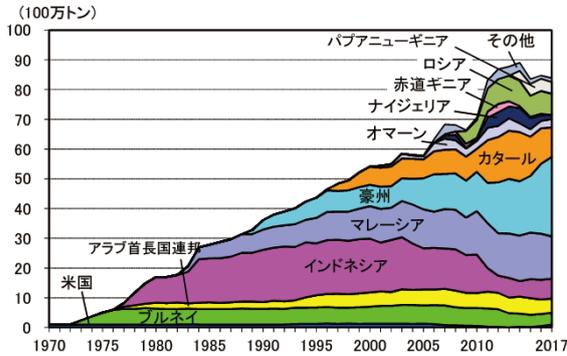
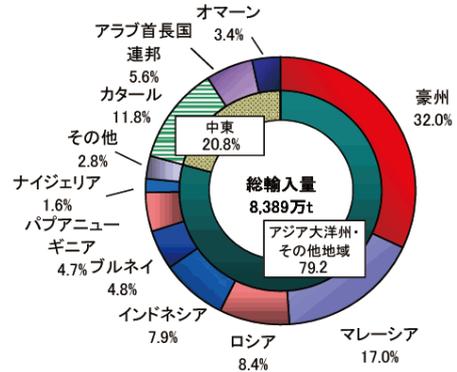
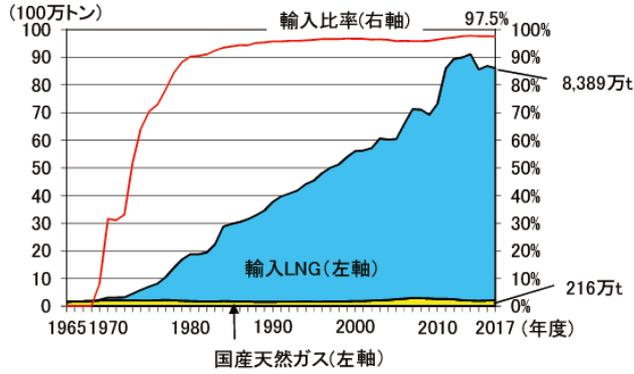
資源エネルギー庁 ホームページ 化石エネルギーの動向より

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2019html/2-1-3.html>

原油（石油）



天然ガス (LNG)



石油ガス (LPG)

